



「桂川っ子」の文字は、
 桂川中学校美術部員が
 デザインしたものです。

【算数道場】

桂川小学校 校長 藤田季弘

福岡県の学力向上の一環として、本年度から算数・数学強化推進事業が開始されました。桂川町内の小・中学校3校でも左記の目的等に基づき、強化学習がスタートしました。

【目的】

- 児童生徒の算数・数学の基礎・基本を確実に身に付けさせる。
- 教師の力量向上を図る。

【内容】

- 小学5年生、中学1年生を対象に、夏季休業中の5日間、教員が指導する。

本校では、5年生65名の参加がありました。夏季休業が始まった7月21日から27日までの午前中、住民センターの2階の部屋をお借りし、本校の全教員でみっちり算数の学習を積み上げました。習熟度（学習の定着状況）別に、4つのクラスに分け、可能な限り個々の実態に応じた指導体制で進めま



した。
 結果的に、1日目に実施したテストと最終日のテストを比較しましたが、全員の成績が上がりました。

「たかが5日間、されど5日間」です。この5日間を通して、指導の仕方等のポイントとやればできるを子どもはもちろん、教師も感じました。

*この算数・数学強化事業は、それぞれの学校の実情により開催日が異なります。

【家庭学習の環境を整えましょう】

教育委員 大塚敏子

広報けいせんの先月号で紹介している「大分県豊後高田市研修視察」の続稿です。同市では、学校と家庭、地域、行政の協力が実を結び、成果を上げているということでしたが、桂川町の場合はどうなのでしょう。

P T A 活動や教育委員として子どもたちとかかわってくる中で感じていることですが、ここ数年間で子どもたちの服装や態度、表情が随分良くなってきたように思います。学校や保護者の努力、地域の方たちのご支援のお陰で、子どもたちが本来持っている力を発揮できるようになってきたからではないでしょうか。

このことは、子どもたち自身も自覚しているようで、桂川中学校で全校生徒を対象に行ったアンケートにおいても、次のような望ましい結果が出ています。

【桂川中学校アンケート結果】

- 学校行事には前向きに取り組みたい
- あいさつを心がけ、決まりやマナーを守る
- 忘れ物などなく授業準備を行う

○先生の授業は丁寧でよくわかる ※すべて80%以上
 しかしながら、全国学力調査と併せて実施される「生活・学習状況調査」により、全国や県の平均と比較してみると、筑豊地区の特徴的な傾向が本町の子どもたちにも表れています。

【筑豊地区の特徴的な傾向】

- テレビ・DVDなどの視聴時間
 間が長い
- 携帯電話で通話やメールをよく利用する
- 平日、土日ともに自宅での勉強時間が短い
- 予習や復習、テストの振り返り、苦手教科の勉強をやっていない

これらのことが学力の差としても出てきているのではないかと思われます。

学校や子どもたちが落ち着いていて特に問題のない今、家庭での生活を再検討し、学習環境を整える努力が各家庭にも求められているのではないのでしょうか。今回の視察研修を通して、このようなことを強く感じたところです。